

原 著

新型コロナウイルス感染症は遺児世帯の生活に どのような影響を及ぼしたか (2)

—テキストマイニングによる自由回答の分析—

加藤 朋江¹⁾, 富井 久義²⁾

1) 福岡女子短期大学

2) 社会情報大学院大学

要 旨

本稿は、あしなが育英会がインターネットで実施した「長引くコロナの影響 インターネット調査」の自由回答の結果を用いて、コロナ禍が遺児家庭の保護者にどのような影響を及ぼしたのかを明らかにするものである。発見としては、第一にコロナ禍によって、一般世帯以上に遺児家庭がその生活基盤を脅かされる（または、すでに脅かされた）割合が高くなるということである。遺児家庭は全てひとり親世帯、または保護者が重度後遺障害である世帯であり、もともと経済的に苦しい状況にあるが、コロナ禍に伴う収入減と支出の増加はこの人々の経済的な基盤に打撃を与えた。第二に、教育費の確保に努める遺児世帯のそもそもの経済的負担が多大であることが、コロナ禍によって一層明確になった。第三に、コロナ禍は貸与型奨学金の負担感を増大させ、将来的に、従来であれば進学が可能であった子どもたちの多くに進学を断念させる可能性がある。

キーワード：新型コロナウイルス感染症、遺児世帯、ひとり親世帯、奨学金、テキストマイニング

1 問題の所在

本稿では、2020年10月から11月にかけて一般財団法人「あしなが育英会」が実施した調査に基づき、2020年を皮切りに日本でも感染拡大が続いている新型コロナウイルス感染症によって遺児世帯の保護者が具体的にどのような困難に晒されているかを、自由回答の分析によって明らかにするものである。

まず、調査の母体である「あしなが育英会」について改めて説明しておく。同会は、「病気や災害、自死（自殺）などで親を亡くした子どもたちや、障がいなどで親が働けない家庭の子どもたちを、奨学金、教育支援、心のケアで支える民間非営利団体」である（同会HPより <https://www.ashinaga.org/about-us/ashinaga-at-a-glance/> 2020年12月21日取得）。支援の対象となるのは「親が病気や災害（道路上の交通事故をのぞく）または自死（自殺）などで死亡、あるいは親が著しい障がいを負っている家庭の子ど

も」であり、支給の対象は高校、大学・短期大学、専門学校、大学院に通う生徒・学生となっている。奨学金は貸与+給付の一体型で、貸与部分は20年以内に無利子で返済を求められるものとなり、他の奨学金との併用も可能とされる。なお、本稿では同会の奨学金を利用している高校奨学生・大学奨学生（四年制大学、短期大学、専門学校の学生を含める）を「遺児」、彼らが含まれる世帯を「遺児家庭」と呼ぶ¹⁾。

具体的な奨学金の額であるが、国公立の高校に通う生徒は45,000円（内貸与25,000円・給付20,000円/月額、以下同じ）、私立高校は50,000円（内貸与30,000円・給付20,000円）である。また、大学生（一般）は70,000円（内貸与40,000円・給付30,000円）、大学生（特別）80,000円（内貸与50,000円・給付30,000円）、専門学校生は70,000円（内貸与40,000円・給付30,000円）、大学院生は120,000円（内貸与80,000円・給付40,000円）である（2020年度）。この他にも、私立高校入学一時金（30万円貸与）、私立大学入学一時金（40万円貸与）、大学等進学仕度一時金（40万円

貸与・高校奨学生対象)の制度も持つ。

このような、既に実施されている奨学金制度に加え、2020年4月において同会は「新型コロナウイルスの感染拡大によって減収し、毎日の生活に困っている遺児家庭を支援するため、全奨学生約6,500人(高校、専門学校、短大、大学、大学院)を対象に、「遺児の生活と教育の緊急支援金15万円」の給付を決定し」ている(同会のHPより)。この給付に先立ち、同会は奨学金を利用している新高校3年生の保護者に対するwebアンケートを実施した。281件の保護者の声は、緊急支援金の給付のニュースと共にあしなが育英会の公式サイトに掲載された²⁾。

今回実施された調査は10月23日から11月5日にかけて、高校・大学奨学生とその保護者全員(計11,789人)を対象に長引くコロナ禍における遺児家庭の実態を把握するためオンラインで実施された。この内容は11月30日に記者発表され、NHKや朝日新聞をはじめ多くのマスコミ媒体に取り上げられた。また、この記者発表の席上で同会の玉井義臣会長は年末において遺児一人あたり20万円を緊急支援として給付することを発表した(朝日新聞2020年11月30日)。

筆者らは、今回の調査において、高校奨学生用・大学奨学生用・保護者用のそれぞれの調査票の設問項目についての監修および保護者調査の結果の分析に携わったことから、あしなが育英会より本調査の個表データの提供を受け、本論文の関心に即した分析をおこなう機会を得た。別稿においては、主として家計と教育・進路選択に焦点を絞って数量的データを取り扱ったが、本稿においては保護者調査の結果のうち、質的データである自由回答記述に焦点を絞って、具体的に記述された内容を詳しく分析したい。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大やそれに伴う社会的な対応(以下、「コロナ禍」と呼ぶ)が、相対的貧困率の高いひとり親家庭に経済的に大きな打撃を与えたことについては既にいくつかの調査が実証し、また多くの論者が指摘しているところである(シングルマザー調査プロジェクト2020等)。加えて、コロナ禍において、既にそれ以前から親世代の所得低下を背景に経済的に苦しい立場にあった全国の大学生たちが、アルバイト量の減少によって経済的に苦しい状況に陥っており、大学に対しての学費減額運動が起こったりしていることについての内(2020)の論考など、大学生の貧困化についても危機意識が共有されるようになってきた。

本稿においては、あしなが育英会の奨学金を利用する遺児世帯、すなわち高校・大学³⁾に子どもを通わせているひとり親または重度後遺障害の親たちが、コロナ禍によって具体的にどのような困難を抱えているかを自由回答の記述から明らかにしていく。

2 あしなが育英会「長引くコロナの影響 インターネット調査」調査概要

2.1 調査の目的と方法

本稿が用いるコロナ禍調査について、概要を記しておく。本調査の名称は「長引くコロナの影響 インターネット調査」(以下、「コロナ禍調査」と呼ぶ)であり、2020年10月23日(木)から11月5日(金)にかけて、郵送で調査を依頼する文書が調査対象者に送られ、インターネット上のフォームでの回答を依頼する方法によって実施された。調査対象者である保護者の総数は5,546人であり、これに対して2,877人が回答した。有効回答率は51.9%である。前述の通り筆者らは設問項目の監修と分析に携わり、今回は同会よりデータの提供と分析についての機会を与えられた。

なお、本調査で得られた情報の分析と公開についてここで言及しておきたい。コロナ禍調査の保護者の調査フォームにおいては、冒頭にあしなが育英会より以下の説明がなされている。「答えにくい質問や難しいと感じる質問については、飛ばしてご回答いただいてもかまいません。①入力された情報は、「今、本当に必要な支援」を把握し、本会の方針を決定するため、また政治や報道機関に対して公的支援の拡充を働きかけていくために使用します。②お寄せいただいた回答の内容は、奨学金の交付には一切影響がありません。自由に記入してください」。この文章は折りたたまれない状態で回答者に提示され、このことを「確認しました」とクリックしないかぎり、調査の回答に進めない仕様になっている。そして本稿の公開によって、あしなが育英会が「本当に必要な支援」についての手がかりを得ること、場合によっては公的支援の拡充を働きかけるために使用されることが期待される。よって、同会からデータの提供を受けた筆者らが、これを公開しても差し支えないと判断する。

もっとも、提供されたデータにおいては自由回答の性質上、当事者が確定できる記述が存在する。本稿は基本的にデータの記述はそのまま分析するが、個人が特定される可能性がある場合はそこを伏せたり、また県ごとに記入されている回答者の居住地域についてもブロック単位で公表したりすることとする。

2.2 回答者の特性

続いて、調査データの分析に先立ち、コロナ禍調査に協力した遺児世帯の保護者について確認しておく。

今回の調査においては、回答者数は2,877件であり、回答者の属性は母親83.5%、父親13.1%、祖父母1.9%、おじ・おば0.8%、兄弟姉妹0.3%、その他0.4%である。母親もしくは父親が回答の96.6%を占める。回答者の主な就労状

況は、パート・アルバイト30.0%、会社員（正社員）25.1%、無職14.0%、会社員（派遣社員・契約社員）10.1%、専業主婦（夫）4.4%となっている。「無職」の中には、コロナ禍によって失職した場合と、重度後遺障害を持つためにもともと就業していなかった場合が含まれる。また、「専業主婦（夫）」と回答した者の中にも同様の事情のある者が含まれることが推測される。回答者の年齢構成は50代が48.6%と半数を占め、続く40代の42.1%を加えると、40代・50代でほぼ9割となるが、回答した者がほぼ母親もしくは父親であるため、高校生や大学生の親の年代がほぼこのゾーンであることを考えれば当然のことである。

今回の調査では、回答者の主な収入源を複数回答をゆるして尋ねているが、給与収入が67.4%、公的年金が39.5%という結果を得ている。コロナ禍調査では保護者の手取り収入について尋ねていないが、2018年度に同会が実施した「奨学生家庭の生活と教育にかんする実態調査」によれば、「仕事をしている」と回答した保護者の就労による1か月の手取り収入は10～15万円未満という回答が30.7%と最も多く、0円以上15万円未満までを併せると49.2%となり、全体のおよそ半数を占める。母子世帯に限定して見てみれば、1か月の手取り収入の平均は13万7,544円で最頻値は10万円であった。0円以上15万円未満が母子世帯全体の59.1%を占めている（小森田2019）。参考までに、総務省「家計調査報告（家計収支編）—平成30年（2018年）平均速報結果の概要—」によれば、勤労者世帯の世帯主の定期収入（男性）は324,962円（2018年月平均額）である。親が就労している奨学生の場合、母子世帯の保護者の手取り収入は男性が主たる家計の維持者である世帯の42.3%ということになり、家計の経済状況はかなり厳しいといえることができる。

2.3 分析の手法について

「コロナ禍調査」の保護者用調査票では、3つの自由回答を立ててコロナ禍における保護者の状況や気持ちについて文字数の制限なく書いていただいた。回答については、テキスト化されたデータをテキストマイニングの方法を使って分析していく。テキストマイニングとは、「自由記述のような文書形式のデータを計量的な方法で分析すること」（牛澤 2018）を指し、近年人文・社会科学の分野でも広く採用されている方法である。

調査の分析に用いたアプリケーションは「KHCoder」である。KHCoderとは樋口耕一によって開発されたテキスト型データ分析用のソフトウェアであり、「処理内容をすべて明らかにしたフリー・ソフトウェア」であるばかりでなく、操作性にも優れ、様々な領域に渡って広く利用されているツールである（樋口2020）⁴⁾。次節では、自由回

答のQ21「仕事に関わる変化や心配ごと」、Q22「政府に対する要望」、Q23「今の不安と悩み」についてテキストマイニングによる分析によって明らかにしていく。

3 自由回答のテキストマイニングによる分析

3.1 「Q21 仕事に関わる変化や心配ごと」

まずQ21では、「仕事に関わる変化や心配ごとはありますか。ご自由にご記入ください」として、仕事に関わる内容を自由回答で尋ねた。回答数は2,518であり、回答者の総数2,877に対して87.5%の回答が確認された。これは、今回の保護者調査における自由回答記述の1つの特徴であるが、「特にありません」のような回答も無いわけではないが、どちらかというとても細かく質問に対して回答している割合が高く、1つの設問につき自由回答記述だけを集めてプリントアウトするとA4で200ページ前後のボリュームになった。それだけ、同会の遺児世帯保護者が何かを訴えようとする気持ちが大きいことが推察される。

さて、Q21の分析に戻ろう。はじめに、記述された後のうち出現頻度が高いものを上から順に150語並べてみた。上位にくる単語は「仕事」「不安」「コロナ」「収入」「心配」「減る」「子ども」「今」「感染」「思う」「生活」……などとなっている。「仕事」「心配」という語は設問の中に入っているため、記述されることが多いのは当然であるが、それ以外で「不安」「収入」「減る」という語や、「コロナ」「感染」「生活」、そして「子ども」についての記述が多いことがわかる⁵⁾（表1）。

続いて、共起ネットワークによって回答の傾向を見ておく。共起ネットワークとは抽出された言葉同士の繋がりを可視化した図である。語の出現率の多さが円の大きさになり、繋がりが深い語同士がまとまってかたまり（クラスタ）を形成する。回答のおおまかな傾向をつかむ上で非常に便利な分析方法である。

この結果、図1の図が得られた。それぞれをまとめるとに見ておこう。

①仕事・収入に対する不安と心配

まずは図1の中央部分、「仕事」「不安」「コロナ」「収入」「心配」「減る」という単語が繋がりが、大きなクラスタを形成していることが確認できる。本調査の回答者のうち、コロナ禍によって収入が減ったとの回答は36.7%で全体の3分の1にのぼる。また、支出においても「マスク、消毒液などの感染予防対策にかんする支出」は81.9%、「在宅勤務や休校に伴う食費・生活費の支出」は70.2%、「オンライン授業にかんする環境整備」は40.1%が「出費が増えた」と回答しており、たとえ収入が変わらなくとも、コロナ禍の生活は支出の増大によって遺児世帯の家計を圧迫している。

具体的な内容は以下の通りである。なお、文中の下線は

表1 Q21「仕事に関わる変化や心配ごと」頻出語 上位100語 (67位まで)

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	仕事	1000	26	増える	118	48	多い	68	59	前	53
2	不安	875	27	時間	114	48	体力	68	59	息子	53
3	コロナ	669	28	月	111	48	大変	68	60	学費	52
4	収入	425	29	体調	110	49	学校	66	60	休み	52
5	心配	404	30	大学	106	49	頑張る	66	60	探す	52
6	減る	346	31	言う	102	49	娘	66	60	病院	52
7	子ども	317	32	状況	101	50	悪い	64	61	減少	50
8	今	280	33	感じる	96	51	精神	63	61	場合	50
9	感染	263	33	年齢	96	51	毎日	63	62	お金	49
10	思う	261	34	転職	91	51	無い	63	62	ストレス	49
11	生活	252	35	雇用	90	52	気持ち	62	62	退職	49
12	自分	202	36	先	87	52	進学	62	63	少し	48
13	出来る	186	37	障害	86	52	変わる	62	63	身体	48
14	いつ	181	38	働ける	81	53	主人	61	63	年	48
15	影響	176	39	給料	80	54	病気	60	63	派遣	48
16	働く	174	40	続ける	79	55	行く	59	64	医療	47
17	会社	169	41	人	78	56	家族	58	64	厳しい	47
18	考える	157	42	契約	77	57	自身	57	64	出勤	47
19	勤務	140	43	少ない	75	58	気	56	64	辛い	47
20	特に	135	44	見つかる	73	58	給与	56	65	受ける	46
21	就職	129	44	現在	73	58	残業	56	66	休む	45
22	介護	126	44	出る	73	58	難しい	56	66	親	45
23	今後	125	45	状態	72	59	この先	53	66	変化	45
24	職場	123	46	続く	71	59	休業	53	67	アルバイト	44
25	パート	122	47	関係	70	59	社員	53	67	安定	44

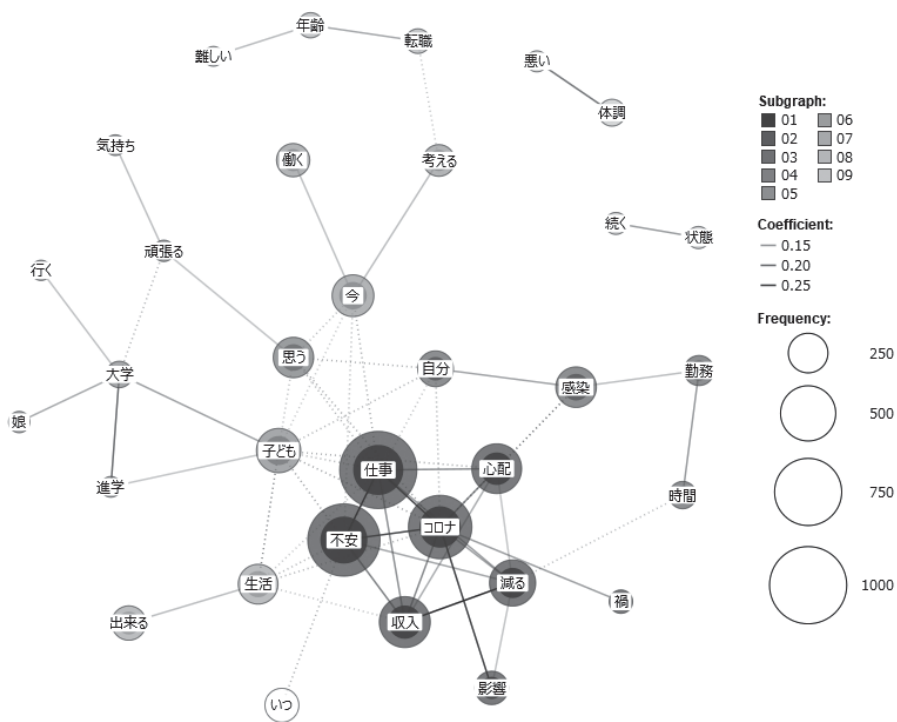


図1 Q21「仕事に関わる変化や心配ごと」共起ネットワーク

筆者らによるものである。

- (1)「収入が減ってしまい先行き不安です。高校卒業すると医療費が3割負担になるので既往症の喘息など具合が悪くてもお金がないと病院や歯医者にも行けず病気が手遅れになりそうです。パソコンを買ってあげられない。オンライン学習など通信費がかかるのでできない。」[関東甲信 50代母親 パート・アルバイト]
- (2)「派遣社員で、いつ契約を切られるか不安です。子供には不安な態度を見せない様にしてますが先の事も考えられず凄く不安です。毎月必ずかかる費用の支払い日が近くなると不安で支払いが終わると一瞬は、ホッとしますがそんな事が毎月なので気の休まる時はないですね……お金の余裕がないと誰と話をしても、そのことばかり考えて心の底から笑えません。早く心の底から笑える日が来る事を信じて……亡くなった主人と老後を見えていましたが、今は息子に頼らない老後を過ごしたいと思っています。」[東北 50代母親 会社員 (派遣社員・契約社員)]
- (3)「コロナの影響で仕事が減り、この先も不安で仕方ありません。娘は大学生であしなが育英会さんから奨学金をお借りしていますが、学費や寮費など支払いも少なくなく、バイトも入れる日数を減らされたと申しておりますが、私にはどうしてやることもできず、歯痒い思いをしています。私は難病と障害があり、ほかに仕事を探したくてもなかなか見つからない状況です。この冬にまた感染が拡大するのかと思うと収入面でも健康面に関しても不安です。」[関西 50代母親 パート・アルバイト]
- (4)「(略) コロナの休業中よりも月日が経つにつれて、貯金がなくなった今の方がしんどいです。子どもには不自由させたくないのに、悟られないようにしていますが、自分の食べるものを削ったりしています。仕事を増やしたいけれど、身体の限界もあるので、増やすこともできず、世帯収入も減り、今、本当にしんどいです。(中略) オンライン授業が始まり、パソコンも学校で全員買わされたり、コロナで今までにない大きな出費が、とてもしんどいです。いつになったら元の生活に戻れるのか、来年は受験で、また大学の費用を貯めないといけないのに、不安で仕方ありません。麻生さんが、給付金は貯金にまわったと言っていますが、みんながそうでないとわかってほしいです。」[関西 40代母親 パート・アルバイト]
- (5)「毎日、施設で働いていますが、今年4月から月に3万円以上減りました。食費を減らしてもやっつけず、これから寒くなりますが灯油も買えません。仕事を増やそうと思ひ、スーパーのパートの面接をうけましたが不採用でした。この冬、乗り切れるか不安しかあり

ません。」[関西 50代 母親 パート・アルバイト]

②子どもの「大学」のために頑張る

つづいて、「子ども」を起点として、「大学」「進学」「頑張る」の語の繋がりが確認される。こちらについて具体的な記述は以下の通りである。日々の生活のみならず、大学進学や大学の授業料など子どもの教育費の負担が保護者に重くのしかかっていることが記されている。また、「頑張る」の主語は保護者本人である場合と、子どもである場合があり、後者では努力をする子どもへの言及、心配がつづられている。

- (6)「飲食店のアルバイトと保険外交員の掛け持ちをしていますが、出勤日数が減って収入減で、生活に困っていますが、せつかく娘が志望の大学に入学したので、バイトをもう1つ掛け持ちしようと考えておりますが、中々バイトも決まらないので、生活に不安感があります。」[東北 40代 母親 パート・アルバイト]
- (7)「会社が倒産して、現在はドライバーのパートとして働いていますが、初めての仕事なので、とても不安です。息子の大学が決まったので、何とか頑張りたいと思っていますが、とても先行きが不安です。」[東海 父親 50代 パート・アルバイト]
- (8)「7月に会社都合退職し、再就職先を探しているが、年齢の関係で応募できる求人は総支給額ですら20万いかないようなものしかなく、これで生活できるのか非常に不安。25年のキャリアが全く活かせず、断腸の思い。今高校生2年生の子どもが大学進学目指し頑張っているが、塾や予備校には経済的にみてとても通わせられず、成績が伸び悩んでいて、焦っている。」[東海母親 40代 無職]
- (9)「毎月の収入が少なく勤めてる会社もコロナで厳しい状況だと聞いており、1番弱い立場の事務職、年配者から切り捨てられるかも知れない噂もあり不安です。住まいが離島で地元には大学が無く遠くで頑張っている大学生の子どもの事が心配でたまりません。お金の不安は毎日夜寝る前に今後の生活費を考えてしまい不安で眠れない事が多いです。」[九州沖縄 母親 50代 会社員 (正社員)]

③年齢的に転職・就職が難しい

「年齢」「転職」「難しい」のクラスが図の上部に確認できる。今回の回答者は40代・50代が9割を占めるが、コロナ禍による収入減や失職で転職や副業に就くことを考えた保護者も多いと思われる。だが、年齢的に、また回答者によっては障がいのためにそれがままならないとする声である。

(10) 「父子家庭です。給与が減ってしまい、副業をと面接も受けましたが、不採用でした。障がい者の雇用は現実的には厳しいです。せめて子供達にはひもじい思いをさせまいと、スーパーで見切り品を買ってしのいでます。それでも育ち盛りには足りていないのが現状です。身寄りもないため、正直親子3人で死の覚悟とも思ったこともあります。助けを願うばかりです。[東北 父親 40代 会社員 (正社員)]

④ 「いつ？」先の見えなさ

「不安」の言葉の先には「いつ」という語が繋がっている。これを大まかに分類すれば、「いつまで仕事ができるのか」「いつまで勤めている会社（組織）が続くのか」「いつ自分は解雇になるのか」という就業上の不安が書かれている場合と、「いつ自分が新型コロナウイルス感染症に感染するのか」の不安が記される場合、加えて「いつまでコロナ禍が続くのか」ということに対する苛立ちが表明される場合に分けられる。

(11) 「いつまで今の職場で雇用していただけるか不安です。サービス業でコロナ禍でリストラが始まっています。転職する場合も私は資格なし、歳も取るばかり、これからの生活が不安でたまりません。」[首都圏 母親 50代 パート・アルバイト]

(12) 「コロナによりアルバイトが禁止になる可能性があり、収入が減少する。医療関係の為、いつ感染するか分からない。頼る人も居ないので不安」[関西, 母親, 30代, パート・アルバイト]

(13) 「コロナにかかったら、職場に迷惑がかかるので、怖いです。なるべく仕事と買い物以外に出かけないようにしているが、いつまでこんな生活なのか、何のために生きているのかと、虚しい気持ちになる時があります。」[首都圏 母親 40代 パート・アルバイト]

(14) 「この状況がいつまで続くのかわからないのが不安です。現在、娘が高校二年生で受験の方法などが変わった時に対応してできるか不安です。」[首都圏 母親 50代 自営業]

3.2 政府に対する要望

本調査が実施されたのは2020年10月末から11月初めにかけてのことであったが、その直前に安倍晋三元首相が辞任、新首相の菅内閣による政権が開始した。そこでQ22では「菅総理大臣の新たな政府に訴えたいこと、要望、伝えたいこと」を自由回答で聞いた。回答数は2,122であり、回答者総数に対する回答率は73.8%である。

まず、頻出語としては「子ども」「思う」「生活」「支援」「人」「大学」「コロナ」「家庭」「給付」「親」「授業」「お願

い」「考える」「国民」「年金」「学費」「社会」「教育」「経済」……などという語が上位に挙がっている（表2）。

続いて、これらの語のつながりを共起ネットワークの図により確認しておこう（図2）。するとまず、「子ども」を中心として「支援」「収入」「お願い」「親」「家庭」「母子」「世帯」のクラスタが確認できる。続いて、「大学」「授業」「学費」「無償」のまとまりと、「年金」「遺族」「障害」や「医療」「補助」「負担」の繋がりも確認される。また、「給付」「支給」、及び「GoTo」「お金」「本当に」「困る」「必要」「使う」「税金」というクラスタも見取ることができる。「生活」は「収入」にも「保護」にも「コロナ」にもつながっている。

これらを大まかにまとめると以下のように記述の傾向をまとめることが可能であろう。すなわち、①ひとり親世帯・所得が低い世帯に対する支援について、②障害年金・遺族年金や医療費負担の補助について、③大学・高校の学費の無償化をめぐる、④GoToへの批判である。以下、①～④の内容を具体的な記述から確認しておこう。

①ひとり親世帯・所得が低い世帯に対する支援について

まず、「子ども」「支援」「家庭」「親」「母子」のクラスタが中央左寄りに確認できる。あしなが育英会の奨学生はひとり親世帯、もしくは保護者が重度後遺障害である世帯である。もともと社会的に弱い立場である彼ら・彼女らはコロナ禍より以前から苦しい生活であったと訴える。大学進学のための経済的負担が多であること、また、奨学金も貸与型である場合、その返済が枷となって進学すること自体が諦められている現実が語られる。経済的な負担のみならず、ひとり親であるために子どもの教育や生活面での全てのことを保護者1人が担わねばならず、彼女（彼）が倒れたことを考えた場合の不安は大きい。

(15) 「(前略) 一律の給付金では足りません。未来ある子ども達が貧困から抜け出せる力を持つ為に、もっと理解し資金面を強化してください。ひとり親家庭はこれまででも、今現在も、ずっと苦しんでいます。いつも私どもに寄り添ってくださるあしなが育英会のみなさんに本当に感謝しています。菅総理、そして国会議員の方々、私どもに寄り添ってください。お願いします。」[九州沖縄 母親50代 専業主婦 (夫)]

(16) 「この国の一人親の学生への経済的な支援は全て高校生までで、一人親家庭にいる大学生への支援はほとんど無いので、一人親家庭にいる大学生にも国が経済的支援をしてほしいと考えています。また、大学生がいる一人親家庭には、大学生だからという理由で国の経済的支援の枠組みから外れているので、支援の範囲を大学生ならびに大学生の親まで広げてほしいと思っ

表2 Q22「政府に対する要望」頻出語 上位100語 (69位まで)

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	子ども	509	26	困る	129	42	政治	89	59	将来	63
2	思う	417	27	国	127	43	学校	87	59	消費	63
3	生活	401	27	受ける	127	44	進学	86	60	欲しい	62
4	支援	388	27	税金	127	44	早い	86	61	状況	61
5	人	376	28	GoTo	123	45	希望	85	62	未来	60
6	大学	330	29	無償	120	46	学生	84	63	高い	59
7	コロナ	311	30	特に	118	47	期待	81	63	手当	59
8	家庭	294	31	出来る	116	48	補助	78	64	雇用	58
9	給付	272	32	働く	113	49	対策	77	65	願う	57
10	親	227	32	母子	113	50	携帯	75	65	企業	57
11	授業	185	33	仕事	105	50	税	75	65	充実	57
12	お願い	180	34	言う	101	51	援助	74	65	出る	57
13	考える	178	35	医療	100	52	遺族	72	66	オンライン	56
14	国民	173	35	大学生	100	52	使う	72	66	変わる	56
15	年金	172	36	安心	99	52	自分	72	67	介護	55
16	学費	154	36	高校	99	52	多い	72	67	格差	55
17	社会	152	36	障害	99	53	奨学	71	67	頑張る	55
18	教育	147	36	政策	99	54	感じる	70	67	子	55
19	経済	145	37	負担	98	55	支給	68	67	世の中	55
20	お金	142	38	日本	96	55	無い	68	68	持つ	54
21	収入	140	39	大変	94	56	行く	67	68	就職	54
22	必要	137	40	環境	91	56	政府	67	69	感染	53
23	今	134	41	所得	90	57	増える	65	69	生きる	53
24	本当に	133	41	世帯	90	57	保護	65	69	費用	53
25	不安	131	41	制度	90	58	良い	64	69	貧困	53

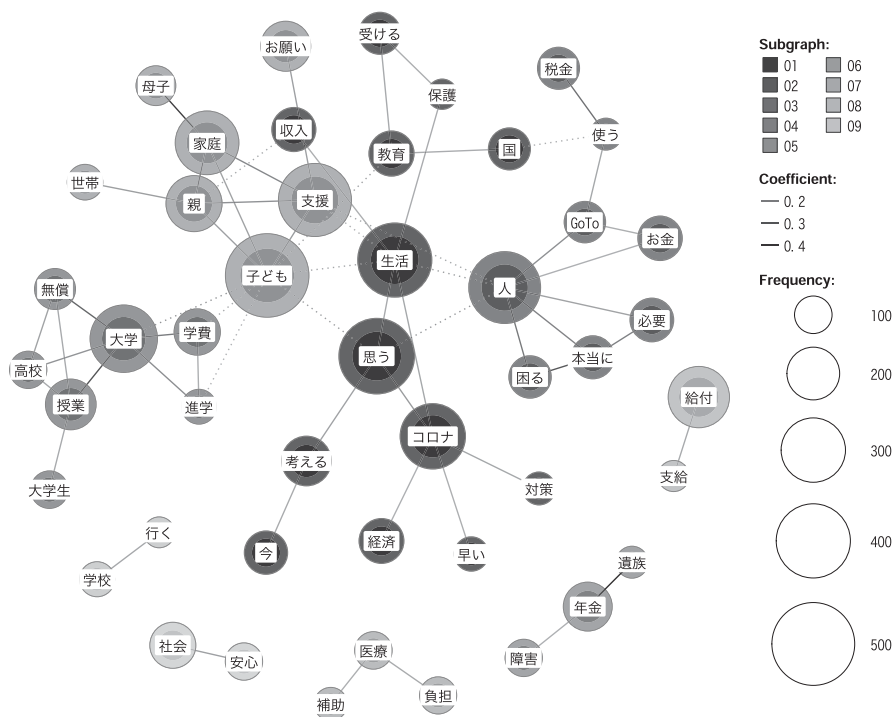


図2 Q22「政府に対する要望」共起ネットワーク

ています。」「首都圏 母親 50代首 パート・アルバイト」

(17)「ひとり親家庭の補助や医療従事者に対する支援をもっと考えてほしいです。夫婦いる家庭は、不安や恐怖は分かち合えたとしても、ひとり親は、自分が働けない限り、子どもたちを健康に育てていくことはできません。また、そうした支援があることで心にも余裕をもって、親も健康に子育てができますと思います。」「中国四国 母親 40代 正社員」

(18)「我が家の長男は、奨学金の返済が出来るか心配で進学を諦めました。長女は、教師になる事を目標に大学の授業とバイト（月に15万円以上稼ぐ時もある）の両立を頑張っています。それぞれの家庭によって格差があり、やりきれない思いを感じる事が多々あります。子どもは家を選んで生まれてくる事は出来ません。自分の将来の夢を諦めずに進める格差のない世の中になってほしいと願います。」「関東信越 母親 50代 パート・アルバイト」

②障害年金・遺族年金や医療費負担の補助について

図2右下には、「年金」に「遺族」「障害」が繋がるクラスが確認できる。ここには、遺族年金・障害年金が子どもが18歳になる年に終わってしまうために、大学生の子どものいる世帯としてはそれ以降が厳しくなる現実が書き込まれていた。また、そうした年金を受給していたり、生活保護を受けている場合であってもそもそもの受給額が少額であるとの訴えもある。

(19)「子どもが二十歳を迎えたので、母子医療も遺族年金の増額も無くなった。大学生なので、扶養して働いているので寡婦医療もコロナの母子家庭の補助も受けられない。小さい子どもよりも出費の金額の桁が違うので、助けて欲しい。私の時は母子医療も7割しか貰えず色々な国からの補助の面で1番損をしている。」「北陸 母親 40代 複数の仕事をかけもち」

(20)「医療体制の拡充を強く望みます。母子家庭で親か子のどちらかがコロナに感染した場合、治療はどうすればいいのか、不安でしかありません。高齢者世帯や母子家庭世帯などが安心して治療が受けられるよう包括的な家族支援が欲しいです。」「首都圏 母親 50代 パート・アルバイト」

(21)「(略)これから失業者が増えると思うが、現状の生活保護手当や障がい者年金は普通に生活していくには少額すぎると思う。生活弱者、就労弱者に最低限の保障をしてほしい。」「首都圏 母親 50代 正社員」

(22)「私の様なひとり親で障害も抱えている家庭は再就職も出来ずこのままでは路頭に迷うしかありません。

もっと底辺の人間の生活に目を向けて下さい。助けて下さい。まだ下には小学生の娘もいます。障害年金だけでは生活していきません。助けて下さい。」「関東信越 母親 50代 無職」

③大学・高校の学費の無償化をめぐって

図2の左側には、「大学生」「学費」「無償」「進学」のまとまりが確認される。いわゆる高等教育の「無償化」政策が2019年度より始まっているが、この制度が厳しい所得制限のために限られた世帯しか実質「無償化」でない点、また授業料は無償化されたとしても入学時納入金など立替えて支払わねばならず、まとまった現金を必要とする点は多くの遺児家庭を苦しめている。加えて、高校や大学において子どもたちが就学する場合、授業料以外にも教育費(部活動の費用、実習にかかる費用など)が発生しその負担が大きいことが書かれている。

(23)「高校、大学、専門学校の授業料無償化 社会保障の充実 貧富の差がなくなるような社会、母子父子家庭の社会や世間の偏見をなくす。」「関東信越 母親 40代 正社員」

「また給付金支給と、大学生がコロナで学校を辞めざる得ない子が出ているので、学費軽減をして欲しい。来年の新入生も入学金、半期、1年の学費を支払いしないと合格頂けないのでそれらを70万～100万とか支払いが厳しい家庭もあると思うので、入学前から大学無償化での金額相殺←立て替えてから後で戻ってくるのではなく」[九州沖縄 母親 40代 無職]

(24)「高等学校無償化の所得基準を緩めて欲しい。私立しか行けないが、所得があるので、授業料が高い。親が長時間労働しなくてよいようにしては、環境作り。支援金があるとありがたい。」「中国四国 母親 40代 公務員」

(25)「高等教育無償化の制度ができて、感謝しています。が、今まで学費を全て奨学金という名前の『借金』を背負って社会に出た子ども達にも、何かしら免除があってほしい、とってしまいます。生まれた時が少し違うだけで、今後10～20年と返済に追われます。収入も減り安定した職場につけていない人も中にはいます。自己責任というには、学費が高すぎる大学のせいでもあり、今の子達との不公平さに理不尽を覚えます。」「東海 母親 50代 無職」

(26)「子どもが大学に行く事とは頑張って行かせようとは思いますが、父親が亡くなってすぐで、生命保険が少し出た事で、大学の無償化は当てにはできず、全額負担せなければなりません(原文ママ)。その保険も子ども達のこれからのためと置いておきたいですが、

大学の費用、生活費を考えると将来が不安でなりません。」「[関西 母親 40代 パート・アルバイト]

(27)「子どもたちの全ての教育費(部活費用・生活費も含め)・医療費の無償化を是非とも実現して欲しい。親の収入の影響を受けずに、また親に負担をかけるからと我慢などせず、のびのびと成長できる社会、深く支える専門機関を国に作って頂きたい。」(母親, 50代, 九州沖縄, 複数の仕事をかけもち)

④GoToキャンペーンへの批判

図2の右側には「GoTo」⁶⁾に「本当」「困る」「人」「お金」「使う」「税金」という語が繋がっていることが確認される。本調査が実施された2020年10月・11月の段階では「GoTo」トラベル、「GoTo」イートなどのキャンペーンが日本全国で展開されており、批判的な意見も交えて広く国内で議論されていた。本コロナ禍調査においては、自由回答記述でGoToに好意的な意見はまばらであり、ほとんどがそれを手厳しく批判する意見であった。その内容は、自分たちにはGoToを利用する余裕がないこと、また、GoToキャンペーンが感染拡大を加速させ、感染した場合に自分たちの世帯が大変な状況になることへの危機(場合によっては恐怖の)意識によるものに分けられる。

(28)「GoTo何とかとか、特別給付金は貯金が増えただけとか、恵まれていない私どもとは関係ない次元の話が世間ではなされています。旅行に行くか行かないかの話のスタートラインに立てない私どもはいつその話題に参加できるんだろう。今回のコロナはもちろん、その前からずっと、苦しんで人間がいる事を理解して欲しい。」「[九州沖縄 母親, 50代 専業主婦(夫)]

(29)「GoToキャンペーンなんて家には全く関係がありません。夢のまた夢、程遠い生活です。コロナ以降、出費が増えても、保護費は減額されています。教育における費用軽減の制度も生活保護のために申請できないものが少なくとも二つはありました。子どもの進学、学力をあげていくことなど、とても難しいと感じています。大学の無償化は生活保護者には立て替える必要のないようにご配慮いただきたいです。そして脱ハンコでだけでなく(原文ママ)、日本独特の保証人制度も撤廃していただきたいと新しい政府に期待しています。」「[首都圏 母親50代 会社員(派遣社員・契約社員)]

(30)「GoToトラベルなども余裕がないと行かれない。もっと余裕のない家庭の支援に目を向けて欲しい 寡婦母子はGoToトラベルどころじゃない」[首都圏 母親40代 会社員(派遣社員・契約社員)]

(31)「GoToキャンペーンで経済をまわすのは分かりま

す。GoToで安くなり旅行に行く人は増えたと思います。恩恵を受けられる人はいいですね。仕事柄旅行にも行けず。その前に旅行に行くお金がない。毎日の生活で手一杯。不公平な感じです。生活がキツイのは自分のせいだと言うことは充分わかっています。でも、不公平。また、コロナの感染が広がってしまう事も心配。自分から家族、自分から勤め先(老人ホーム)に感染させてしまうのではないかと、毎日ヒヤヒヤして生活しています。コロナ鬱になる勢いで不安な毎日を過ごしています。」「[首都圏 母親40代 会社員(派遣社員・契約社員)]

(32)「GoToキャンペーン等、人が積極的に動くように働きかける政策はやめて欲しい。持病があり、コロナ感染は本当に恐怖。ワクチンや薬が出て、国民が安心できるようになってから経済を回すことを考えて欲しい。」「[東北 母親 40代 会社員(正社員)]

(33)「GoToとか一部の人用の政策をやるんなら、それに関われない人にも目を向けてほしい。私は元々そんなことに使う金もないけど、介護施設で働いてるから、自分も家族も行けない。感染者の多いところから親戚が来たら仕事を二週間休まないといけな。有給休暇が沢山あるわけではなく、有給がキレたら休み扱いで収入なし。報道を見るだけで嫌な気持ちになる。」「[中国四国 母親 50代 パート・アルバイト]

3.3 今の不安と悩み

3つめの自由回答Q23の設問では、今感じている悩みを聞いた。回答者数は2,223であり、回答者総数に対する回答率は77.3%である。頻出語の上位は以下の通りである。「不安」「子ども」「生活」「コロナ」「大学」「心配」「仕事」「思う」「収入」「就職」「進学」「出来る」「自分」「今」「お金」「学費」「考える」「娘」「学校」「息子」が上位20位に挙がっている(表3)。

引き続き、共起ネットワークで言葉同士の繋がりを確認してみると、図3の通りになる。

「不安」は「子ども」「生活」とつながり、「コロナ」は「感染」「就職」「心配」「仕事」とつながっている。また、前述のQ21とも共通するが子どもについての不安として、「大学」「受験」「進学」「学費」、及び「高校」「卒業」が一つのまとまりを形成している。「障害」「年金」「主人」は、重度後遺障害の配偶者の年金についての声であろう。「続く」は「いつ」「状況」という語とつながっており、この「状況」が「いつ」まで「続く」のかという不安に結びついている。先の分析と重複する部分を省き、ここでは次の①②のみについて述べる。

①子ども(進学・受験・卒業・就職)についての不安、コ

表3 Q23「今の不安と悩み」頻出語 上位100語 (67位まで)

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	不安	1041	26	感じる	109	45	オンライン	72	60	専門	49
2	子ども	888	26	親	109	46	受ける	71	60	増える	49
3	生活	603	27	卒業	107	47	家族	70	61	事	47
4	コロナ	520	28	経済	105	48	年金	69	61	状態	47
5	大学	366	29	今後	104	49	社会	68	61	必要	47
6	心配	353	30	先	103	50	働く	67	61	負担	47
7	仕事	310	31	行く	100	51	健康	66	62	この先	46
8	思う	309	32	頑張る	97	51	来年	66	62	家庭	46
9	収入	278	32	障害	97	52	年	64	62	教育	46
10	就職	263	33	減る	94	52	本当に	64	62	見える	46
11	進学	242	33	高校	94	53	大変	63	62	少ない	46
12	出来る	210	34	人	93	54	自身	60	62	老後	46
13	自分	206	35	希望	89	54	悩む	60	63	生きる	45
14	今	193	36	影響	87	55	出る	59	63	勉強	45
15	お金	177	37	続く	86	55	大学生	59	64	進路	44
16	学費	157	38	言う	84	55	特に	59	64	返済	44
17	考える	156	39	体調	82	56	無い	57	65	安定	43
18	娘	155	40	病気	81	57	気持ち	54	65	家	43
19	学校	153	41	困る	78	57	精神	54	65	月	43
20	息子	144	41	受験	78	57	早い	54	66	介護	42
21	いつ	142	42	主人	76	57	多い	54	66	活動	42
22	感染	140	43	子	75	58	支援	52	66	前	42
23	将来	139	44	金銭	73	59	行ける	51	66	良い	42
24	奨学	124	44	状況	73	59	夫	51	67	難しい	41
25	授業	122	44	費用	73	59	毎日	51			

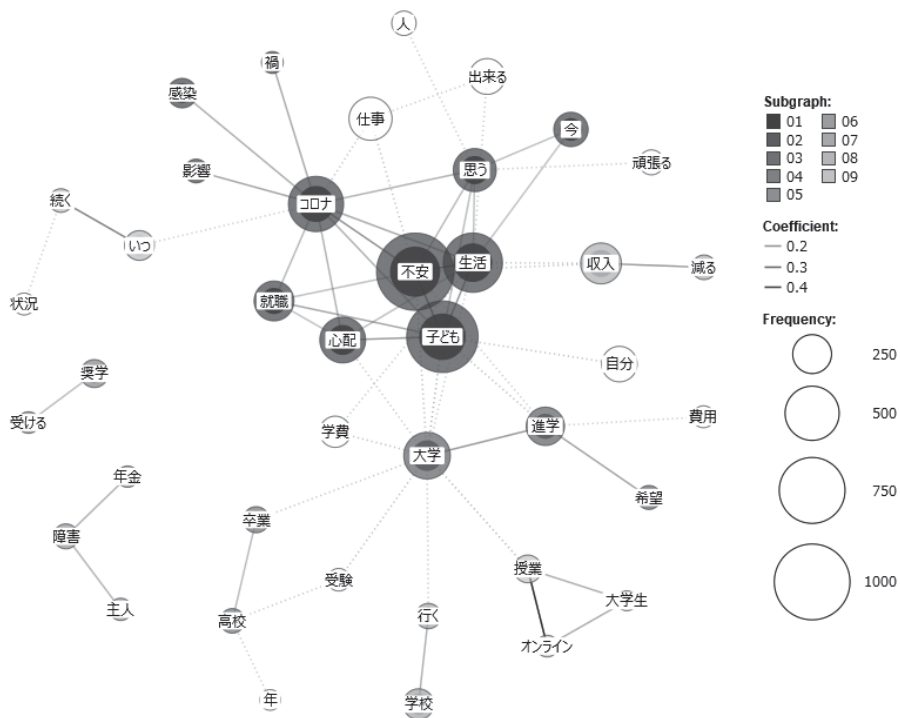


図3 Q23「今の不安と悩み」共起ネットワーク

コロナ感染の不安

まずは、「不安」「生活」「コロナ」「子ども」のクラスタを確認しておこう。回答者の子どもたちは、あしなが育英会の奨学金を利用しており、その他の貸与型奨学金を併用している者も多い。将来、それらの奨学金を返還する必要があるという事情もあって、コロナ禍における就職難が懸念される。

(34)「コロナがいつまで続くのか収束が見えてこないので先行きが不安である。息子の就職も4年生なので早く内定が欲しいのだが、コロナ禍による人員削減で就活も採る人数が若干名しかいなく、内定が決まらない状態である。卒業前には内定してもらわないとあしながさんの奨学金も返せない。[北海道 50代母親 会社員 (正社員)]

(35)「子供の学生生活、卒業まで頑張れるか？ 卒業後の就職が出来るのか？ 通常でも心配な事が、世の中のコロナ禍で心配が不安に大きく膨れ上がりました。上を見たらキリがありません。でも今がギリギリなので底辺しか見えなくて、私の体はいつまで持つのか？
もし私がいなくなったらどおなるのか？ 子ども達には、普通以上の苦勞はさせたく無い、幸せになって欲しい、その為に少しでも貯蓄もしてあげたい。[関東甲信 50代母親 パート・アルバイト]

②大学のオンライン授業に対する不満

「授業」「オンライン」「大学生」というクラスタが右側に確認される。2020年度は多くの大学が感染症拡大を防止するために対面授業を中止し、オンラインでの授業を実施している⁷⁾。オンライン授業に対する遺児家庭保護者の意見は批判的なものが多い。それは、子どもたちが「大学に通えない」、つまり従来型の、キャンパスに通って、直接教員と学生たちが交流し、図書館を含めた大学施設や周辺環境を利用できる「学生生活」を味わうことができない落胆と、オンライン授業に伴う費用負担の大きさを嘆く声である。書き込まれている以下の回答を紹介する。

(36)「コロナで大学に通えていない息子のことを思うと気の毒な気持ちになり、親として何もしてやれない事が申し訳ない様な気になり気分が落ち込む事が多いです。本来なら息子が新しい大学生活で色々な人と関わり成長していく時期だと私自身が期待して、胸を膨らませていましたが、この貴重で短い大学4年間という時間の内の一年が、友達と出会う事もなく過ぎてしまう事に、残念な気持ちで、先が見えないだけにひどく、どうにもならない事に気分が落ち込み、気力が湧きません。[東北 40代母親 パート・アルバイト]

(37)「(略) コロナ禍で、オンライン授業など通信設備と通信費がかかるようになりました。スマホは費用がかかるので、私はガラケーで高校生以下の子はスマホを持っていません。子どもに一人一台スマホを持たせるなんて、とてもできません。オンラインでの授業や連絡等、学校で使わせたいなら、子どもの通信設備や通信費は国が負担してほしいです。子どもの学用品も、制服も体育着も運動靴も……全て他のものと同じように消費税がかかるのもきついです。子どもは成長するので頻繁に買い替えも必要です。スマホも持たせず、塾にも行かせず、大学生は地方大学で他の友だちが車で通っていても自宅から自転車と電車で徒歩で通学させても、ギリギリです。(略) [関東甲信 50代母親 パート・アルバイト]

4 結語

本稿では、あしなが育英会がインターネットで実施した「コロナ禍調査」の自由回答の結果を用いて、コロナ禍が遺児家庭の保護者にどのような影響を及ぼしたのかを明らかにしてきた。

明らかになったことは第一に、コロナ禍によって、一般世帯以上に遺児家庭がその生活基盤を脅かされる(または、すでに脅かされた)割合が高いということである。遺児家庭は全てひとり親世帯、または保護者が重度後遺障害である世帯であり、もともと経済的に苦しい状況にある。コロナ禍に伴う収入減と支出の増加は、この人々の経済的な基盤に打撃を与えた。また、「いつ」解雇されるかわからない、会社(組織)が潰れるかわからないという状況と、新たな就職や副業への就業がままならない状況は多くの保護者たちを不安に陥れている。同時にひとり親である場合、自分が感染したり過労で倒れたりした場合、収入減の危険性と共に、誰が家事や子どもの世話をするのかということでも不安が付きやすい。

第二に、高校生や大学生を育て、教育費の確保に努める遺児世帯のそもそもの経済的負担が多大であることが、コロナ禍によって一層明確になった。先に述べた通り、あしなが育英会は高校奨学生に毎月の給付2万円、大学奨学生に毎月の給付3万円を含めた奨学金の制度を整え、2020年度においては春に奨学生1人あたり15万円の緊急給付金を準備した。多くの保護者たちがこれには感謝しているが、自由回答の記述を読むと感じられるのは、日本において高等学校進学や大学進学にかかる費用負担が多大であることである。

第三に、奨学金を借りることの負担が子どもたちの教育機会を将来的に失わせる可能性があることを指摘しておきたい。コロナ禍以前であれば、貸与型の奨学金を学生本人が在学中に借りて卒業後に就業しながら返済するというモ

デルを見通すことができた。だが、現在は感染拡大が収束する見通しも立たず、既に新卒者の就職状況にも大きな影響が出始めている。観光業や運輸業、飲食業など、「きちんと毎月給与が支払われ、将来に渡って安泰である」とこれまでは見込まれてきた就職先が次々と大幅な赤字を抱え、次年度の新卒者を受け入れない状況をわれわれは2020年度中に多く見聞きしてきた。こうした社会の不安定な状況にあって、奨学金を受給している世帯の保護者と当事者である高校生・大学生は、将来の返済の負担を思わざるを得ないであろう。コロナ禍は、従来であれば進学が可能であった子どもたちの多くに進学を断念させ、また奨学金を借りることができないことによって、その保護者たちにいっそう厳しい生活を余儀なくさせている。加えて、進学その先にある未来の展望が見通せないことも遺児世帯の大きな不安の種となっている。

注

- 1) 前述の通り、あしなが育英会が奨学金の貸与・給付の対象としている子どもは病気・自死・災害遺児だけではなく、「親が著しい障がいを負っている(重度後遺障害)家庭の子ども」も含む。だが、同会では奨学生一般を「遺児」と呼んでおり、実際に病気・自死・災害遺児が多数を占めることから、本稿でも同会の奨学生を「遺児」と呼ぶ。
- 2) 「あしなが育英会 奨学生保護者(おかあさん)緊急アンケート」
https://www.ashinaga.org/ja/archives/007/202004/okasan_questionnaire_summary.pdf (2020年12月28日取得)
- 3) ここでいう「大学」とは、あしなが育英会の「大学奨学生」の対象となる学校の校種を指す。すなわち、四年制大学のみならず、短期大学、専門学校、各種専修学校等も含まれる。
- 4) 「KHCoderを用いた研究事例」によれば、2021年1月現在で

4,100件を超える研究事例が報告されている。(https://khcoder.net/bib.html?year=2020 & auth=all & key=) (2021年1月4日取得)

- 5) 「子供」「こども」として表記されている語についても、すべて「子ども」に変換して集計した。
- 6) 「ゴートゥー」「goto」「GOTO」等々として表記されている語についても全て「GoTo」に変換して集計した。
- 7) 「雷音学術出版」のサイトでは、2020年度前期における全国の人文・社会科学系の大学教員による遠隔授業の実践についての記録が集約されている。『遠隔で作る人文社会科学知』
<https://sites.google.com/view/lionpress> (2021年1月5日取得)「オンライン授業」も多種多様であり、対面授業とは違う可能性も開かれている。だが今回の調査では、前年度には予想されない形でそれが始まってしまったこと、PCやネット環境整備の経済的負担が大きかったことに回答者の批判が集中したように読めた。

文献

- 朝日新聞 (2020年11月30日)
「あしなが育英会、全奨学生7600人に一律20万円給付」(2020年12月27日取得、<https://www.asahi.com/articles/ASNCZ5WN4NCZUTIL01G.html>)
- 樋口耕一 (2020)『社会調査のための計量テキスト分析【第2版】内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版
- 小森田龍生 (2019)「主要な発見」『奨学生家庭の生活と教育にかんする実態調査 調査報告2018年9月』、あしなが育英会、1ページ
- 大内裕和 (2020)「『コロナ災害』下の学生たち バイト難民・貧困化・学費減免運動」『現代思想』第48巻14号、青土社、21-34ページ
- シングルマザー調査プロジェクト (2020)「『新型コロナウイルス』深刻化する母子世帯のくらし—1800人の実態調査・集計表(確報)—」を公表、シングルマザー調査プロジェクト、(2020年12月18日取得、https://note.com/single_mama_pj/n/n213a01adecde)
- 牛澤賢二 (2018)『やってみよう テキストマイニング 自由回答アンケートの分析に挑戦!』朝倉書店

**Effects of the novel coronavirus (COVID-19)
on the economic conditions of orphaned students and their families (2)**
—Analysis of free responses by text-mining—

Tomoe Kato, Hisayoshi Tomii

Abstract

This study elucidates the impact of the novel coronavirus (COVID-19) on orphaned students and their families using the free responses to the “Nagabiku korona no eikyou intanetto chousa” [Internet Survey on the Long and Ongoing Effects of the COVID-19] conducted by Ashinaga. The survey revealed the following. (1) The threat experienced by widows/widower-headed families due to the pandemic was much more severe than that of general households. Most orphaned students and their families faced economic distress as they were single-parent-headed families or parents with severe physical impediments. However, a decline in income and increase in expenses that were associated with the COVID-19 pandemic added to the financial burden of these families. (2) The financial burden to secure educational fees was high for widows/widower-headed families, which became higher during the COVID-19. (3) The COVID-19 pandemic increased the burden of student loans, which, in turn, forced some children who would normally have been able to pursue higher studies to abandon their goals.

Keywords: Novel coronavirus (COVID-19), orphaned students, student loans, text-mining